

2024 年度 履修便覧
修士課程

GA

Tokyo University of the Arts
Graduate School of Global Arts,
Department of Arts Studies and Curatorial Practices

東京藝術大学大学院
国際芸術創造研究科
アートプロデュース専攻

目 次

| | | |
|-----|--------------------------------------|----|
| 1. | 大学院国際芸術創造研究科（修士課程）履修内規 | 1 |
| 2. | 大学院国際芸術創造研究科（修士課程）学位論文並びに最終試験に関する細則… | 2 |
| 3. | 授業時間 | 3 |
| 4. | 指導教員及び担当科目表 | 3 |
| 5. | 教育課程表 | 3 |
| 6. | 開設科目 | 4 |
| 7. | 単位及び成績 | 7 |
| 8. | 博物館学課程（学芸員資格） | 9 |
| 9. | 学生生活 | |
| （1） | 学内在留時間 | 12 |
| （2） | 事務センター | 12 |
| （3） | 連絡・伝達事項 | 12 |
| （4） | 授業料の納入 | 13 |
| （5） | 学生証 | 13 |
| （6） | 証明書 | 13 |
| （7） | 各種手続 | 14 |
| （8） | その他 | 15 |
| 10. | 規則 | |
| （1） | 東京藝術大学大学院学則（抄） | 16 |
| （2） | 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科規則 | 24 |
| （3） | 東京藝術大学学位規則（抄） | 28 |
| （4） | 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科開設授業公欠の承認基準 | 31 |

1. 大学院国際芸術創造研究科（修士課程）履修内規

（1）履修方法

① 国際芸術創造研究科教育課程

学生は、2年以上在学し、教育課程表にしたがって必修科目並びに選択科目をあわせて30単位以上修得するものとする。学位取得のためには30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は修士論文と特定課題研究報告書の審査及び最終試験に合格しなければならない。

② 学位（修士）取得のための最低単位数

アートプロデュース専攻における学位（修士）取得のための最低単位数は、教育課程表の取得単位欄の合計に定める単位数である。

③ 学位の授与

修士の課程を修了した者に対しては、「修士（学術）」の学位を授与する（英語名称は「Master of Arts」）。学位の授与日は3月末または9月末とする。

（2）学生は、いずれかの研究分野に所属し、指導教員の指導により研究するものとする。

（3）選択科目については、あらかじめ指導教員の指導を受けて履修するものとする。

（4）各授業科目（学科科目・実技科目）は、総授業回数の2/3以上出席することで採点・成績評価の対象となる。

（5）履修登録

指定された期間（学事暦及び掲示を参照）に、教務システムを使用し履修登録するとともに、「履修届（研究計画届）」を提出しなければならない。登録にあたっては、各自が責任を持って「履修便覧」「授業時間割」「授業計画書」等を検討し、計画的に履修すること。

- 登録は定められた期間に本人が行うこと。（やむを得ない理由により、期限までに手続きできない学生は、事前に千住校地事務センター（以下「事務センター」という。）に連絡すること）
- 登録した科目でなければ単位は修得できない。
- 一部の科目を除き、すでに単位を修得した科目は、原則として登録できない。
- 登録の変更・追加・取消は、原則としてできない。
- 二重登録（同一授業時間に2科目以上を登録する）をした場合、両科目とも無効とする。
- 「履修届（研究計画届）」は、必要事項を記入し期限までに事務センターへ提出すること。
- 履修登録の手続をしない者は、その年度における履修の権利を放棄したものとみなす。

2. 大学院国際芸術創造研究科（修士課程）学位論文並びに最終試験に関する細則

制 定 平成 29 年 7 月 13 日

最近改正 平成 30 年 3 月 8 日

第 1 条 修士論文の審査を受けようとする者は、以下の期日（休・祝日の場合はその前日までとする）に従い、論文の題目を国際芸術創造研究科長に届け出なければならない。なお、届け出をする時点で休学中であっても学位審査申請書類の提出を認める。

（1）3 月末に学位取得を希望する者は、当該年度の 10 月末とする。

（2）9 月末に学位取得を希望する者は、当該年度の 4 月末とする。

第 2 条 修士論文の提出形態は、以下の 2 種類からひとつを選択する。

（1）修士論文のみ

（2）修士論文＋特定課題研究報告書

2 前項の修士論文および特定課題研究報告書（以下「論文等」という）は、研究科が定めた期間に国際芸術創造研究科長に提出しなければならない。

論文等を期間経過後に提出した場合は、その年度内に審査を行わない。

第 3 条 論文等は、日本語または英語での執筆を認める。

2 修士論文は日本語 40,000 字前後、英語 20,000 word 前後を字数の目安とする

（ただし、第 2 条 1 項 2 号を選択した場合、特定課題研究の内容によって修士論文の字数は変動し、指導教員の判断によって決定される）。

第 4 条 特定課題研究報告書は、展覧会、コンサート、アーツ・プロジェクト、出版、オンライン・プラットフォームによる情報発信、シンポジウム企画などを実施し、その企画についての報告書を作成・提出するものとする。

第 5 条 最終試験は論文等を中心として、口述試験により行う。

第 6 条 論文等の審査日程及び最終試験の日程については、国際芸術創造研究科教授会により決定する。

第 7 条 論文等に関する審査については東京藝術大学学位規則による。

**※学位論文等の提出については、期限を厳守すること。
（原則として、期限後の論文提出は認めない。）**

3. 授業時間

| 時限 | 時 間 |
|----|-----------------------|
| 1 | 9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0 |
| 2 | 1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0 |
| 3 | 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0 |
| 4 | 1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0 |
| 5 | 1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 5 0 |

4. 指導教員及び担当科目表

| 専攻 | 研究分野 | 指 導 教 員 名 | | 担 当 科 目 名 |
|---|-----------|-----------|--------|-----------------------|
| ア ー ト プ ロ デ ユ ー ス | アートマネジメント | 教授 | 熊倉純子 | 概論、特論、演習、特別演習、総合実習Ⅰ・Ⅱ |
| | | 教授 | 箕口一美 | 概論、特論、演習、特別演習、総合実習Ⅰ・Ⅱ |
| | キュレーション | 教授 | 住友文彦 | 概論、特論、演習、特別演習、総合実習Ⅰ・Ⅱ |
| | | 准教授 | 長島 確 | 概論、特論、演習、特別演習、総合実習Ⅰ・Ⅱ |
| | | 准教授 | 鷲田 めるろ | 概論、特論、演習、特別演習、総合実習Ⅰ・Ⅱ |
| | リサーチ | 教授 | 毛利嘉孝 | 概論、特論、演習、特別演習、総合実習Ⅰ・Ⅱ |
| | | 教授 | 清水知子 | 概論、特論、演習、特別演習、総合実習Ⅰ・Ⅱ |

5. 教育課程表

| 履修区分 | 群 | 授業科目名 | 履修年次 | | 修得単位数 | | |
|------|--------------------------|--|------|-----|-------|----|----|
| | | | 1年次 | 2年次 | 小計 | 中計 | 合計 |
| 必修科目 | 基礎科目 | グローバル時代の芸術文化概論 (Introduction to Art and Culture in the Global Age) | 2 | | 2 | 10 | 30 |
| | 実践科目 | アートプロデュース総合実習 | 4 | 4 | 8 | | |
| 選択科目 | 基礎科目 | アートプロデュース概論 | 2 | | 2 | 12 | |
| | | アートプロデュース特論 | | 2 | 2 | | |
| | 実践科目 | アートプロデュース演習 | 4 | | 4 | | |
| | | アートプロデュース特別演習 | | 4 | 4 | | |
| | 基礎科目 実践科目 他研究科開設科目 | ※各専門領域に応じて 必要な科目を履修 | | 8 | 8 | | |

※他研究科開設科目は、開設研究科が履修を許可するもので、指導教員が認めるものに限る。

6. 開設科目

| 履修区分 | 群 | 科目名 | 単位数 | 開講時期 | 担当 | 科目の主な内容 | |
|--------------|------|---|---|-------------|---|---|-------|
| 必修科目 | 基礎科目 | グローバル時代の芸術文化概論 (Introduction to Art and Culture in the Global Age) | 2 | 通 | G A 全教員 | 英語による各担当教員のオムニバス講義 | |
| | 実践科目 | アートプロデュース総合実習 I (Arts Studies and Curatorial Practices Lab I) | 4 | 通 | 教授 熊倉 教授 箕口 教授 住友 准教授 長島 准教授 鷺田 教授 毛利 教授 清水 | 専攻の共通科目であり、学生の 実践や研究の発表に対して教員 が講評を行う。 | |
| | | アートプロデュース総合実習 II (Arts Studies and Curatorial Practices Lab II) | 4 | 通 | 教授 熊倉 教授 箕口 教授 住友 准教授 長島 准教授 鷺田 教授 毛利 教授 清水 | | |
| | 選択科目 | 基礎科目 | アートプロデュース 概論 (Introduction to Arts Studies and Curatorial Practices Course) | アートマネジメント I | 2 | 前 | 教授 熊倉 |
| アートマネジメント II | | | | 2 | 前 | 教授 箕口 | |
| キュレーション I | | | | 2 | 後 | 准教授 鷺田 | |
| キュレーション II | | | | 2 | 前 | 教授 住友 | |
| キュレーション III | | | | 2 | 前 | 准教授 長島 | |
| リサーチ I | | | | 2 | 前 | 教授 毛利 | |
| リサーチ II | | | | 2 | 前 | 教授 清水 | |
| 実践科目 | | アートプロデュース 特論 (Arts Studies and Curatorial Practices (Advanced)) | アートマネジメント I | 2 | 前 | 教授 熊倉 | |
| | | | アートマネジメント II | 2 | 前 | 教授 箕口 | |
| | | | キュレーション I | 2 | 後 | 准教授 鷺田 | |
| | | | キュレーション II | 2 | 前 | 教授 住友 | |
| | | | キュレーション III | 2 | 前 | 准教授 長島 | |
| | | | リサーチ I | 2 | 前 | 教授 毛利 | |
| | | | リサーチ II | 2 | 前 | 教授 清水 | |

| 履修区分 | 群 | 科目名 | 単位数 | 開講時期 | 担当 | 科目の主な内容 |
|-------|-----|--|-----|------|----------------|-------------------------------|
| 選択科目目 | 基礎科 | 美学Ⅰ | 2 | 前 | 講師(非) 吉田 | 芸術と美について |
| | | 美学Ⅱ | 2 | 後 | | |
| | | 音楽文化史Ⅰ | 2 | 前 | 講師(非) 館 | 西洋音楽の歴史を音の変遷として理解する |
| | | 音楽文化史Ⅱ | 2 | 後 | | |
| | | 著作権概論Ⅰ | 2 | 前 | 講師(非) 桑野 | 著作権法の基本的な考え方を理解する |
| | | 著作権概論Ⅱ | 2 | 後 | | |
| | | 映像プロデュース概論 | 2 | 集 | 教授(兼) 岡本 | 作品を社会に送り出すための映像プロデュース |
| | | 芸術と情報 | 2 | 後 | 教授(兼) 桐山 | 芸術と情報技術について多面的に理解する |
| | | 芸術文化批評方法論 (Approaches to Art Criticism) | 4 | 通 | 講師(非) 菅原 | 批評の方法論を実践的に修得 |
| | | アジア文化研究 (Asian Cultural Research) | 4 | 通 | 講師(非) 葛西 | 近現代アジアにおける文化表象の諸相 |
| | | 文献講読演習 | 4 | 通 | 教授 熊倉 | アートマネジメントに関する専門文献を年度を通じて精読する |
| | | グローバルアート批評理論 | 4 | 通 | 講師(非) 近藤 | グローバル化時代における美術批評のあり方 |
| | | アジア実演芸術マネジメント研究 | 2 | 前 | 講師(非) 滝口 | アジアにおける研究に有用なスキルを習得 |
| | | キュレイトリアル&アートセオリー研究1 | 2 | 前 | 講師(非) ジェニスン | キュレイトリアルとアートに関するセオリー(理論)を研究する |
| | | キュレイトリアル&アートセオリー研究2 | 2 | 後 | 講師(非) 星野 | キュレイトリアルとアートに関するセオリー(理論)を研究する |

| 履修区分 | 群 | 科目名 | 単位数 | 開講時期 | | 担当 | 科目の主な内容 |
|---|--------------|--|--------------|------------------|--------|--------|-----------------------------|
| | | | | | | | |
| 選択科目 | 基礎科目 | キュラトリアル実践演習 | | 2 | 通 | 助教 庄子 | |
| | | 研究方法論 | | 2 | 通 | 助教 楊 | |
| | | アカデミック・ライティング | | 2 | 通 | 助教 トラン | |
| | 実践科目 | アートプロデュース演習 (Arts Studies and Curatorial Practices Seminar) | アートマネジメント I | 2 | 前 | 教授 熊倉 | 各分野でのプロジェクトや演習をベースとした実践的な教育 |
| | | | | 2 | 後 | | |
| | | | アートマネジメント II | 2 | 前 | 教授 箕口 | |
| | | | | 2 | 後 | | |
| | | | キュレーション I | 2 | 前 | 准教授 鷺田 | |
| | | | | 2 | 後 | | |
| | | キュレーション II | 2 | 前 | 教授 住友 | | |
| | | | 2 | 後 | | | |
| | | キュレーション III | 2 | 前 | 准教授 長島 | | |
| | | | 2 | 後 | | | |
| | | リサーチ I | 2 | 前 | 教授 毛利 | | |
| | | | 2 | 後 | | | |
| リサーチ II | 2 | 前 | 教授 清水 | | | | |
| | 2 | 後 | | | | | |
| アートプロデュース特別演習 (Arts Studies and Curatorial Practices Research Seminar) | アートマネジメント I | 2 | 前 | 教授 熊倉 | | | |
| | | 2 | 後 | | | | |
| | アートマネジメント II | 2 | 前 | 教授 箕口 | | | |
| | | 2 | 後 | | | | |
| | キュレーション I | 2 | 前 | 准教授 鷺田 | | | |
| | | 2 | 後 | | | | |
| キュレーション II | 2 | 前 | 教授 住友 | | | | |
| | 2 | 後 | | | | | |
| キュレーション III | 2 | 前 | 准教授 長島 | | | | |
| | 2 | 後 | | | | | |
| リサーチ I | 2 | 前 | 教授 毛利 | | | | |
| | 2 | 後 | | | | | |
| リサーチ II | 2 | 前 | 教授 清水 | | | | |
| | 2 | 後 | | | | | |
| 他研究科開設科目（別途掲示にて案内する） | | | | 開設研究科授業計画・時間割等参照 | | | |

注意事項

1. 年度によって開講しない授業科目があるため、開講科目は毎年必ず時間割表により確認すること。
2. 開講時期は、「通」が通年、「前」が前期、「後」が後期、「集」が集中講義の開講である。

7. 単位及び成績

(1) 単位

本研究科における各授業科目の単位数は、1単位45時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算するものとする。

1 単位に必要な授業時間数

| | | |
|-----------|---|-------|
| 講 | 義 | 15 時間 |
| 演 | 習 | 15 時間 |
| 実験、実習及び実技 | | 30 時間 |

(2) 成績

本研究科における各授業科目の成績は、「秀」「優」「良」「可」及び「不可」の評価をもって表し、「可」以上を合格とし、「不可」は不合格とする。

各授業科目は、総授業数の3分の2以上出席し、その試験（学期末または学年末）に合格することにより所定の単位が授与される。

－評価基準－

| | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 秀 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| 100～95 | 94～80 | 79～60 | 59～50 | 49 以下 |
| As | A | B | C | D |

※ 論文等の学位審査における成績評価も同じ評価をもって表し、可以上を合格とする。

成績発表は前期及び後期の末に行うので、教務システム又は千住校地正面自動ドア脇及び上野校地学生課前内に設置された証明書自動発行機により各自確認すること。

修了者へは修了式（例年3月25日）の際に、学位記に添えて交付する。

(3) 通年授業の単位分割制度の取扱いについて

(平成 29 年 5 月 11 日 教授会決定)

(平成 30 年 9 月 26 日 教授会改正)

年度途中で休学をするとき、下記の条件を満たす場合に限り、特例として、通年の授業でも半期ずつの単位（本来の単位数の半分）が認められる。

① 単位分割が認められる場合：

- a. 外国の正規の学校制度による大学・大学院又は、それらに相当すると認められている教育機関の課程に在学する場合。
- b. 育児・介護・配偶者同行（対象は職員の休業等に関する諸規則に準ずるものとする。）による休学の場合。
- c. その他、研究科長が教育上、有効と認めた場合。

② 休学の開始、及び復学の時期：

半期授業の所要出席数を十分に満たすことのできる時期であること。

③ 当該科目の担当教員より、前期の合格相当の成績評価を得られること。

④ 休学申請書提出時に必要な書類：

- a. 【①a.に該当する場合】受け入れ機関等が発行する受け入れ証明書。留学期間や資格等を明記したもの。
- b. 休学に伴う通年授業の単位分割申請書。

⑤ 復学申請書提出時に必要な書類：

- a. 【①a.に該当する場合】その教育機関に在学していたことを証明する資料：在学証明書、成績証明書、学生証、成績表（票）、履修票（指導教員の受講サインがあるもの）等。場合によっては授業納入済証等でよい。学位を取得したり、卒業・修了の資格を取得している必要はない。

・資料原本は、教務係においてコピーを取った上、返却する。

- b. 復学に伴う通年授業の単位分割申請書。

⑥ 復学後の注意事項：

上記授業が修了要件授業である場合、後期では同じ授業科目の半期分を履修しなければならない。ただし、もしそれが開設されていない場合には、それに相当する授業の半期を履修しなければならない。

※申請は教務係にて行うこと

8. 博物館学課程（学芸員資格）

| 博物館法施行規則に定める科目 | | | 本学における開設科目 | | | |
|----------------|--|----|-------------|--------|----|--------------|
| 科目 | 単位数 | 科目 | 単位数 | 開設 | 備考 | |
| 必修科目 | 生涯学習概論 | 2 | 生涯学習概論 | 2 | 大美 | |
| | 博物館概論 | 2 | 博物館概論 | 2 | | |
| | 博物館経営論 | 2 | 博物館経営論 | 2 | | |
| | 博物館資料論 | 2 | 美術館資料論 | 2 | | |
| | 博物館資料保存論 | 2 | 博物館資料保存論 | 2 | | |
| | 博物館展示論 | 2 | 企画展示論 | 2 | | |
| | 博物館教育論 | 2 | 博物館教育論 | 2 | | |
| | 博物館情報・メディア論 | 2 | 博物館情報・メディア論 | 2 | | |
| | 博物館実習 | 3 | 美術館実習A・B | 3 | | A・B いずれかを修得 |
| 選択科目 | 文化史 美術史 考古学 民俗学 自然科学史 物理 化学 生物学 | 8 | 日本美術史概説 | シラバス参照 | 美 | 合計 8 単位以上を修得 |
| | | | 東洋美術史概説 | | | |
| | | | 西洋美術史概説 | | | |
| | | | 西洋美術史演習 | | | |
| | | | 日本工芸史概説 | | | |
| | | | 彫刻概論 | | | |
| | | | 工芸理論 | | | |
| | | | 漆工史 | | | |
| | | | 東洋陶磁史 | | | |
| | | | 染織工芸史 | | | |
| | | | デザイン概説 | | | |
| | | | 日本・東洋建築史 | | | |
| | | | 西洋建築史 | | | |
| | | | 文化財保護概論 | | | |
| | | | 現代芸術概論 | | | |
| | | | 文化人類学 | | 音 | |
| | | | 音響学 | | | |
| | | | 芸術文化環境論 | | | |
| | | | 西洋音楽史 | | | |
| | | | 日本・東洋音楽史 | | | |
| | | | 楽器学 | | | |
| | | | 西洋音楽史概説 | | | |
| | | | 日本音楽史概説 | | | |
| 東洋音楽史概説 | | | | | | |
| 音楽民族学概説 | | | | | | |
| 音楽音響学 | | | | | | |
| 芸術情報概論 | 芸 | | | | | |

※他大学出身者で、本学での学芸員資格取得を希望する者は、選択科目 8 単位を全て本学で履修しなければならない。

- (備考)
- 1 表記中「大美」は、大学美術館開設科目を示す。
 - 2 表記中「音」は、音楽学部開設科目を示す。
 - 3 表記中「美」は、美術学部開設科目を示す。
 - 4 表記中「芸」は、芸術情報センター開設科目を示す。

○ 学芸員資格について

博物館や美術館などには、博物館法に基づき資料の収集、調査、研究、保管、展示、教育普及などに関する専門的職務を行う者として、学芸員が置かれている。

学芸員となる資格を得るためには、学士の学位を有し、博物館法施行規則に定める博物館学に関する単位を取得していなければならない。

本学では、学芸員資格取得の科目として上記の表のとおりを開講している。学芸員資格取得を目指す者は、授業計画（シラバス）を熟読して内容をよく理解したうえで、各自の研究分野での学修との両立を考慮して、1年次から計画的に履修すること。

なお、近年では学芸員職の採用試験は極めて倍率の高い難関なので、学芸員を目指すならば、資格に加えて、各自の専攻分野における知識・技能・経験を深めるための積極的な学修が必要である。

○ 課程表について

1. 必修科目は表に示した科目を全て履修すること。
2. 美術館実習は、他の必修8科目の単位を全て取得してから受講することが望ましいが、美術館実習と同年度中に全ての単位を取得できる見込みがある者は履修可能。
3. 博物館経営論及び美術館実習は、集中講義で行う。（博物館経営論は1年次で履修しておくことが望ましい。）
4. 選択科目は、本学における開設科目の中から8単位以上を修得すること。
5. **博物館学課程（学芸員資格）の科目を履修しても、国際芸術創造研究科の修了要件単位には含まれない。**
6. 所定の単位を修得し、学士の学位を有する者については、学芸員資格証明書を交付する。（学芸員資格証明書は申請しないと交付されないので、注意すること。（申請受付は修了年次の12月に行う。手続方法は掲示等で通知する。））
7. 本学の博物館学学芸員課程は、美術系博物館・美術館および美術資料の取り扱いに重点を置いているので、他大学で履修した必修科目のうちで、本学で認定される科目は限られる（下記参照）。
8. 履修科目については各自が責任を持って課程表を確認の上、計画的に履修すること。

○ 他大学等において修得した博物館学課程（学芸員資格）科目について

他大学で博物館学課程科目の単位を修得し、本研究科に入学したもので、学芸員資格の取得を希望する者は、以下の科目のみ、修得済みの単位を申告することができる。

・申告できる科目（博物館学学芸員課程の一覧表を参照）

生涯学習概論，博物館概論，博物館経営論，博物館情報・メディア論，
博物館教育論

（この場合、認定という形はとらないが、履修登録時または学芸員資格証書の授与申請時に出身大学で単位取得の証明を受けられることが確認できれば、本学で再履修の必要はない。なお課程表下の注釈にあるように、他大学出身者で、本学の学芸員資格取得を希望する者は、選択科目8単位を全て本学で履修しなければならない。）

9. 学生生活

(1) 学内在留時間

1) 通常時： 平日、土・日曜日、祝祭日を問わず、7：30～21：00

2) 休業期間

① 夏季

○ 平日・土曜日： 7：30～20：00

○ 日曜日・祝日、夏季休日： 登校禁止

② 冬季： 登校禁止

③ 春季： 平日、土・日曜日、祝祭日を問わず、7：30～20：00

※夏季、冬季及び春季休業期間の詳細は毎年度学事暦にて確認すること。

下校時間を厳守すること。また、入学試験実施その他による登校禁止等については、学事暦に記載してある他、その都度、掲示により連絡する。

千住校地においては、入構は上記在留時間の終了の30分前までとなっている。入構可能時間内で正面自動扉が施錠されている時に入構する場合は、自動扉脇の通用口を、学生証を用いて解除して入ること。

また上野校地において、上記在留時間内で教員室が閉まっている時に院生室を使用する場合は、守衛所で学生証と引き換えに院生室の鍵を借りること。

なお他の学部・研究科の施設や附属図書館、各センター等を利用する場合には、それぞれの定めるところに従うこと。

(2) 事務センター

各種事務手続は、特別の指定のあるものを除き、下記の場所で、所定の時間内に行うこと。

千住校地：千住校地事務センター（千住校地1階）

平日（月～金） 9:00～12:30、13:30～17:00

上野校地：国際芸術創造研究科教員室内（国際交流棟5階）※事務取扱時間は別途通知する

(3) 連絡・伝達事項

教員室、あるいは授業時に教員から指示される事項を除き、大学から学生への連絡・伝達事項は、特別の事情によるもの以外、すべて掲示（大学HP及び教務システム）により行う。

○ 構内放送

火事等の災害時における緊急を要する場合及び多数の学生に知らせる必要のある場合は、構内放送で連絡する。

○ 電話での問い合わせ

- ・学外者からの電話の取り次ぎは、緊急を要する場合以外、一切行わない。
- ・学外者からの学生の住所・電話番号等の問い合わせには、一切応じない。

(4) 授業料の納入

- ・納入方法は原則として口座振替（自動引落）となっているので、振替日前までに必要金額を入金しておくこと。
- ・振替日は、前期分 5 月 27 日、後期分 11 月 27 日（土日祝日にあたる場合は、翌営業日）である。

(5) 学生証

- ・本学学生として常に携帯すること。
- ・有効期限は 2 年間である。留年等で更新手続きが必要な場合は所定の手続を取ること。
- ・改姓、住所変更等、記載事項に変更が生じた場合は、必ず届け出ること。手続については、(7) 各種手続を参照のこと。
- ・本学学生の身分を離れた時は、すみやかに学生証を返還すること。
- ・学生証の違法使用（他人への譲渡、記載事項の無断変更記入等）があった場合は、大学として厳しく処分する。
- ・学生証を紛失した場合は、学生課学務係へ再交付を願い出た上、所定の手数料を財務会計課で納付すること。（学生課、財務会計課はいずれも上野校地事務局にある。）

○ 通学定期券

- ・学生証、通学定期券発行控及び各駅にある申込用紙を駅の窓口に出し、購入する。
- ・住所変更に伴い、通学経路の変更をしたい場合は、通学区間変更の手続を事務センターで行うこと。

(6) 証明書等

次の証明書等については、証明書自動発行機で発行すること。証明書自動発行機は、上野校地では学生課内に、千住校地では入口自動ドア脇に設置されている。稼働時間と発行できる証明書の種類については、ウェブサイトを確認すること。

○ 学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）

- ・学割は証明書自動発行機で発行できる。
- ・学割は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度であり、学生個人の自由な権利として利用することを前提としているものではないことを念頭に置くこと。
- ・1 人につき年間 10 枚まで使用でき、発行日より 3 ヶ月間有効である。ただし、1 月 1 日以降に発行したものは 3 月 31 日を有効期限とする。

- ・学割を利用するときは、常に学生証を携帯すること。
- ・学割の不正使用は、本人に対する罰則だけでなく、全学生への使用禁止となることもあるので、絶対に行わないこと。

証明書自動発行機で発行できない各種証明書の発行は、「証明書発行申請書」に必要事項を記入し、事務センターへ申し込むこと。和文証明書の場合は発行までに3日間程度、英文証明書の場合は約1週間を要する。相談が必要な証明書については、事務センターに問い合わせること。

学生の個々の理由（手続の遅れ、差し迫った必要度等）に応じて証明書を発行することはできないので、必要な手続は早めに行い、提出期限を守るように、各自が心がけること。

(7) 各種手続

- 以下の変更手続は CampusPlan で案内しているウェブフォームから行うこと。

| | |
|------|-------------|
| 学生本人 | 氏名 |
| | 住所 |
| | 電話番号（自宅・携帯） |
| | メールアドレス |
| 保証人 | 氏名 |
| | 住所 |
| | 電話番号（自宅・携帯） |
| | メールアドレス |
| | 勤務先名称 |
| | 勤務先電話番号 |

- その他の手続

下表に示した各種手続は、事務センターで行うこと。病気・怪我等で来学できない場合を除き、原則として学生本人が行うこと。（身分異動に関する手続は、必ず学生本人が行うこと。）

| | |
|-------|--|
| 休学申請書 | 病気・ケガ等の場合は診断書を添付する。 ＜大学院学則 32、33、34 条＞参照 |
| 復学申請書 | 病気・ケガ等の理由で休学していた場合は、修学が可能である旨を証明した診断書を添付する。＜大学院学則第 35 条＞参照 |

| | |
|--------|---------------------------------|
| 退学申請書 | 受理された後、学生証を返還する。＜大学院学則第 37 条＞参照 |
| 旧姓使用申出 | 戸籍抄本等を添えて申し出る。 |

(8) その他

- 現金等の貴重品は、各自が責任をもって管理し、盗難防止に務めること。特に学生証やキャッシュカードは悪用される恐れがあるので、十分注意すること。
- 教室等に許可なく私物を置かないこと。許可なく置かれたものについては、紛失等があっても、大学では、一切責任を負わないので注意すること。
- 学内においては、火気の無断使用を厳禁とする。また、本学においては、敷地内全面禁煙とする。なお本学の敷地外（周辺道路）においても、周辺の迷惑となる喫煙を行わないよう受動喫煙防止に配慮すること。
- 本学の駐車スペースは極めて限られているので、学内への車両の乗り入れは原則として禁止とする。荷物の搬送等、やむを得ない状況により車両乗り入れの必要がある場合は、事前に許可を得ること。
- キャッチ商法、マルチまがい商法等のいわゆる悪徳商法、インチキ商法には十分注意すること。電話や街頭での巧みな勧誘等にのることなく、断るときはきっぱりと断ること。また、安易に署名・捺印等をしないこと。
- 度を越した飲酒は厳に慎むこと。
- 大麻・マリファナ・危険ドラッグ等の薬物には、絶対に手を出さないこと。
- その他、以下の URL の「学生便覧」によく目を通すこと。

https://www.geidai.ac.jp/life/gakusei_binran

10. 規則

(1) 東京藝術大学大学院学則（抄）

制 定 昭和 52 年 4 月 28 日

最近改正 令和 3 年 7 月 15 日

第 1 章 総則

第 1 節 目的

(目的)

第 1 条 東京藝術大学大学院（以下「大学院」という。）は、芸術及びその理論を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とする。

(点検・評価)

第 2 条 大学院は、その教育研究水準の向上を図るとともに、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。）の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 大学院は、前項の点検・評価に加え、教育研究等の総合的な状況について、定期的に文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

3 第 1 項の点検・評価については、本学の職員以外の者による検証を行うものとする。

4 前 3 項の点検・評価に関し必要な事項については、別に定める。

第 2 節 研究及び教育組織

(大学院の課程)

第 3 条 大学院における課程は、博士課程とする。

2 前項の博士課程は、前期 2 年の課程及び後期 3 年の課程に区分し、前期 2 年の課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。

3 前項の前期 2 年の課程は「修士課程」といい、後期 3 年の課程は「博士後期課程」という。

4 修士課程は、広い視野に立って芸術についての精深な学識と技術を授け、芸術の各分野における創造、表現、研究能力又は芸術に関する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

5 博士後期課程は、芸術に関する高度な創造、表現の技術と理論を教授研究し、芸術文化に関する幅広い識見を有し、自立して創作、研究活動を行うに必要な高度の能力を備えた研究者を養成することを目的とする。

(研究科及び専攻)

第 4 条 大学院に、次の研究科を置く。

(4) 国際芸術創造研究科

2 前項の研究科に置く専攻は、次の表のとおりとする。

| 研究科名 | 修士課程 | 博士後期課程 |
|-----------|-------------|-------------|
| | 専攻名 | 専攻名 |
| 国際芸術創造研究科 | アートプロデュース専攻 | アートプロデュース専攻 |

3 研究科に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 教員組織

(教員組織)

第5条 研究科に、研究科長を置く。

2 研究科長は、当該学部の学部長をもって充てる。ただし、映像研究科長及び国際芸術創造研究科長は、当該研究科の専任教授のうちから、別に定める基準により選考する。

3 研究科の授業及び修士論文（専攻により研究作品、研究演奏又は特定課題研究報告書を加え、又は修士論文に代えて研究作品若しくは、研究演奏若しくは特定課題研究報告書とする。以下「修士論文等」という。）又は博士論文（研究領域により研究作品又は研究演奏を加える。以下「博士論文等」という。）の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を担当する教員は、大学院において授業又は研究指導を担当する資格を有する当該学部の教授、准教授及び講師又は客員教授とする。

第4節 入学定員及び収容定員

(入学定員及び収容定員)

第6条 研究科の専攻別入学定員及び収容定員は、次の表のとおりとする。

| 研究科名 | 修士課程 | | | 博士後期課程 | | |
|-----------|-------------|------|------|-------------|------|------|
| | 専攻名 | 入学定員 | 収容定員 | 専攻名 | 入学定員 | 収容定員 |
| 国際芸術創造研究科 | アートプロデュース専攻 | 10 | 20 | アートプロデュース専攻 | 5 | 15 |
| | 計 | 10 | 20 | | 5 | 15 |

第5節 研究科委員会

(研究科委員会)

第7条 美術研究科及び音楽研究科に、当該研究科の重要事項を審議するため、研究科委員会を置く。

2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

第6節 学年、学期及び休業日

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学期)

第9条 学期は、次の2学期に分ける。

- (1) 前学期 4月1日から9月30日まで
- (2) 後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第10条 休業日(授業を行わない日)は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める日
- (3) 開校記念日 10月4日
- (4) 春季、夏季及び冬季休業日

2 前項第4号の休業日は、別に定める。

3 学長は、必要があると認めるときは、第1項の休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。【(注)休業日は毎年度変更されるので、当該年度の学事暦で確認すること。】

第2章 研究科通則

第1節 標準修業年限及び在学年限

(標準修業年限)

第11条 修士課程の標準修業年限は、2年とする。

2 博士後期課程の標準修業年限は、3年とする。

(在学年限)

第12条 学生は、修士課程にあつては3年、博士後期課程にあつては5年を超えて在学することはできない。

第2節 教育方法等

(教育方法)

第13条 研究科の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行う。

2 学生は、いずれかの研究室に属し、指導教員及びその他の教員の研究指導を受けるものとする。

(履修方法等)

第14条 研究科における授業科目の内容及びその単位数、研究指導の内容並びにそれらの履

修方法は、当該研究科委員会の意見を参考として、学長が別に定める。

- 2 研究科における単位の計算方法、授業日数及び授業期間については、東京藝術大学学則（以下「本学学則」という。）の第 80 条から第 83 条までの規定を準用する。ただし、本学学則別表（第 80 条関係）については、次の表に読み替えるものとする。

| | 講義 | 演習 | 実験、実習 及び実技 | 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習 及び実技のうち二以上の併用により行う場合 |
|-----------------------|----|----|---------------|--|
| 国際 芸術 創造 研究科 | 15 | 15 | 30 | 2つの授業の方法を組み合わせる行う授業科目の場合、それぞれの授業時間数を x 、 y とすると、 $ax+by$ (a : 1 単位の授業科目を構成する内容の学修に必要とされる時間数の標準である 45 時間を該当する左記の時間数で除して得た数値、 b : 同じく 45 時間を該当する左記の時間数で除して得た数値) が 45 となるように x 及び y の時間を定める。3つ以上の授業の方法を組み合わせる行う授業科目の場合も、授業の方法の数値を増やし同様に時間を定める。 |

（他の大学院における授業科目の履修）

第 15 条 各研究科が教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより、学生に他の大学院の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、修士課程及び博士後期課程を通して 15 単位を超えない範囲で本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 3 前 2 項の規定に関し必要な事項は、各研究科において別に定める。

（研究指導委託）

第 16 条 各研究科が教育上有益と認めるときは、別に定めるところにより、学生に他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生にあっては、当該研究指導を受けさせる期間は、1 年を超えないものとする。

- 2 前項の規定に関し必要な事項は、各研究科において別に定める。

第 17 条 【略】

第 3 節 課程の修了

（修士課程の修了要件）

第 18 条 修士課程の修了要件は、大学院に 2 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、

必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた業績を上げた研究科委員会（映像研究科及び国際芸術創造研究科については、教授会とする。以下同じ。）が認めた者については大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

第19条 【略】

（単位の認定）

第20条 授業科目を履修した者に対しては、試験の上、その合格者に所定の単位を与える。

（論文等審査の際の試験）

第21条 論文等審査の際の試験は、所定の単位を修得し、かつ、修士論文等又は博士論文等の審査に合格した者について行う。

（課程の修了認定）

第22条 修士課程又は博士後期課程の修了は、当該研究科委員会の意見を参考として、学長が認定する。

第4節 学位

（学位の授与）

第23条 研究科において修士課程を修了した者には修士の学位を、博士後期課程を修了した者には博士の学位をそれぞれ授与する。

2 【略】

3 学位に関し必要な事項は、別に定める。

第5節 入学、休学、復学、転学、退学、留学及び除籍

（入学の時期）

第24条 入学（編入学及び再入学を含む。）の時期は、学年の始めとする。ただし、学年の途中においても、学期の区分に従い、学生を入学させることができる。

第25条～第31条 【略】

（休学）

第32条 病気その他の理由により引き続き2ヶ月以上修学することができないときは、医師の診断書又は理由書を添えて休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。

第33条 病気その他の理由により修学することが不相当であると認められる者に対しては、研究科委員会の意見を参考として、学長が休学を命ずることができる。

（休学期間）

第34条 休学期間は、修士課程及び博士後期課程において、それぞれ1年以内とする。

2 特別な理由があるときは、休学願を提出し、学長の許可を得て更に1年に限り休学期間を延長することができる。ただし、それぞれ通算して2年を超えることができない。

3 休学期間は、第 12 条に規定する在学年数に算入しない。

(復学)

第 3 5 条 休学期間中にその理由が消滅したときは、医師の診断書又は理由書を添えて復学願を提出し、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第 3 6 条 他の大学院に転学を希望する者は、その理由書を添えて退学願を提出し、学長の許可を得て転学することができる。

(退学)

第 3 7 条 退学を希望する者は、その理由書を添えて退学願を提出し、学長の許可を得て退学することができる。

(留学)

第 3 8 条 留学を希望する者は、その理由書を添えて、留学願を提出し、学長の許可を得て留学することができる。

2 留学した期間は在学年数に加え、第 15 条第 2 項及び第 16 条第 1 項の規定を準用する。ただし、休学して外国で学修する場合を除くものとする。

(除籍)

第 3 9 条 次に掲げる各号の一に該当する者は、当該研究科委員会の意見を参考として、学長が除籍する。

(1) 在学年限を超えた者

(2) 2 年の休学期間を超えて、なお復学することができない者

(3) 授業料を滞納し、督促を受けてもなお納入しない者

(4) 入学料の免除又は徴収猶予を申請し、免除若しくは徴収猶予の不許可又は一部免除若しくは徴収猶予の許可の告知を受け、所定の期日までに入学料を納付しない者

(5) 行方不明の者

第 4 0 条～第 4 2 条 【略】

第 4 章 検定料、入学料及び授業料

(検定料、入学料及び授業料)

第 4 3 条 検定料、入学料及び授業料の額は、東京藝術大学における授業料その他の費用に関する規則（以下「費用規則」という。）の定めるところによる。

2 【略】

(授業料の納付)

第 4 4 条 授業料は次の 2 期に分けて納入しなければならない。ただし、納付する者から申出があつた場合には、前期分徴収の際、後期分も併せて納入することができる。

前期 年額の 2 分の 1（納入期限 5 月 31 日まで）

後期 年額の2分の1（納入期限11月30日まで）

（入学料の免除及び徴収猶予）

第45条 経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められるとき又はその他特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められるときは、入学する者の願い出により入学料の全部又は一部を免除若しくは徴収猶予することができる。

2 入学料の免除及び徴収猶予に関する事項は、別に定める。

（授業料の免除）

第46条 経済的理由その他特別な事情により授業料の納付が困難であると認められるときは、その者の願い出により授業料の全部又は一部を免除することができる。

2 授業料の免除に関し必要な事項は、別に定める。

（授業料等の還付）

第47条 納入済の検定料、入学料及び授業料は、還付しない。ただし、授業料については、入学を許可するときに納付した者が、入学年度の前年度末日までに入学を辞退した場合は、この限りでない。

2 前期分授業料納入の際、後期分授業料を併せて納付した者が、その年の9月末日までに休学又は退学した場合には、後期分授業料に相当する額を還付する。

第5章 賞罰

（表彰）

第48条 学長は、学生として表彰に価する行為があった者に対しては、これを表彰することができる。

（懲戒）

第49条 学生に対して次の各号の一に該当する者があるときは、学長が、これを懲戒するものとする。

（1）性行不良の者

（2）学力劣等の者

（3）正当の理由なく出席常でない者

（4）本学大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

2 懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

第6章 雑則

第50条 この学則に定めるもののほか、本学大学院学生に関し、必要な事項は、本学学則、東京藝術大学学生生活通則その他学部学生に関する諸規則を準用する。

2 前項に規定する準用を行う場合は、「学部」とあるのは「研究科」と、「学部長」とあ

るのは「研究科長」と読み替えるものとする。

附 則 【略】

附 則

この学則は、令和3年7月15日から施行する。

(2) 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科規則

制 定 平成 28 年 4 月 1 日

最近改正 平成 30 年 3 月 1 日

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、東京藝術大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第 4 条第 3 項の規定に基づき、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科（以下「研究科」という。）における必要な事項について定めるものとする。

(目的)

第 1 条の 2 研究科は、芸術と国際社会との関係性や国内外の情勢変化等を踏まえ、世界的にも評価の高い我が国の芸術文化価値や既に固有の存在として確立されている芸術諸分野の学術基盤を最大限に活かしつつ、専門領域によって分化している芸術文化の様々な実践を横断的かつ有機的に結びつけながら、新たな芸術価値を創造し、国際的に展開できる先導的な実践型人材育成や、芸術文化力を活かした新たなイノベーション創出・社会革新等をもたらすことのできる人材の育成を目的としている。

(課程)

第 2 条 研究科における課程は、博士課程とする。

2 前項の博士課程は、前期 2 年の課程及び後期 3 年の課程に区分し、前期 2 年の課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。

3 前項の前期 2 年の課程は「修士課程」といい、後期 3 年の課程は「博士後期課程」という

(専攻)

第 3 条 博士課程の専攻は、アートプロデュース専攻とする。

(指導教員)

第 4 条 研究科教授会は、学生の所属する専攻に応じて研究指導教員を定めるものとする。

(成績評価基準等)

第 5 条 成績評価基準は別表のとおりとし、各授業における授業の方法及び計画並びに成績評価の方法に関しては、授業計画書等により学年の始めに公表する。

(単位の認定方法等)

第 6 条 単位の認定は、前条に規定する成績評価基準に基づき、試験の成績等により、授業

担当教員が行う。

- 2 成績の評価は、秀・優・良・可及び不可の評語をもって表し、可以上を合格とし、不可は不合格とする。

第7条 研究科の専攻における授業科目及び単位数は、研究科（修士課程）履修内規（以下「修士履修内規」という。）及び研究科（博士後期課程）履修内規（以下「博士後期履修内規」という。）に定めるとおりとする。

第2章 修士課程

（履修方法）

第8条 修士課程の学生（以下本章中「学生」という。）は、修士履修内規に定める当該専攻の授業科目のうちから必修科目及び選択科目を合わせて、30単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けなければならない。

- 2 前項の選択科目の履修に当たっては、指導教員の指導を受けて、他研究科において開設する授業科目を履修することができる。この場合において、修士課程において修得すべき単位として認められる限度は、8単位以内とする。

（履修届及び研究計画の届出）

第9条 学生は、学年の始めに、指導教員の指導を受けて、履修届及び研究計画を所定の期日までに届け出なければならない。

（授業科目の試験）

第10条 履修した授業科目の試験は、筆記試験若しくは口頭試験又は研究報告によって行うものとする。ただし、研究科教授会の承認を得た授業科目については、平常の成績又は当該授業科目の担当教員の合格報告をもってこれに代えることができる。

- 2 前項に規定する試験に合格した授業科目については、所定の単位を授与する。

（修士論文等の提出）

第11条 修士論文及び特定課題研究報告書（以下「修士論文等」という。）は、修士課程に1年以上在学し、2年次修了時まで30単位以上の修得見込みの者でなければ提出することができない。ただし、極めて優れた研究業績を上げたとして研究科教授会が認めた者の在学要件に関しては、大学院学則第18条ただし書に規定する期間の在学見込みがあれば足りるものとする。

- 2 修士論文等並びにその題目及び要旨は、研究科長が指定する期日までに提出しなければならない。この場合において、修士論文等の題目については、あらかじめ、研究指導教員の承認を得なければならない。

(修士論文等の審査及び試験)

第12条 修士論文等の審査及び試験は、東京藝術大学学位規則の定めるところにより、研究科教授会が行う。

2 特別の事情により修士論文等の審査及び試験を受けることができなかつた者は、その理由を付して修士論文等の追審査及び追試験を願い出ることができる。

3 研究科長は、前項の願い出のあつた者について、研究科教授会の議を経て、修士論文等の追審査及び追試験を行うことができる。

第3章 博士後期課程

(履修方法)

第13条 博士後期課程の学生(以下本章中「学生」という。)は、博士後期履修内規に定める授業科目のうちから10単位以上を修得しなければならない。

2 学生は、所属する研究領域において、指導教員及びその他の教員の研究指導を受けなければならない。この場合における研究指導については、単位を与えないものとする。

(履修届及び研究計画の届出)

第14条 学生は、学年の始めに指導教員の指導を受けて、履修届及び研究計画を所定の期日までに届け出なければならない。

(授業科目の試験)

第15条 履修した授業科目の試験は、筆記試験若しくは口頭試験又は研究報告によって行うものとする。ただし、研究科教授会の承認を得た授業科目につい

ては、平常の成績又は当該授業科目の担当教員の合格報告をもってこれに代えることができる。

2 前項に規定する試験に合格した授業科目については、所定の単位を授与する。

(博士論文等の提出)

第16条 博士論文及び実践活動成果報告書(以下「博士論文等」という。)は、博士後期課程に2年以上在学し、当該課程修了時までに10単位以上の修得見込みの者でなければ提出することができない。ただし、極めて優れた研究業績を上げたとして研究科教授会が認めた者の在学要件に関しては、大学院学則第19条各項ただし書に規定する期間の在学見込みがあれば足りるものとする。

2 博士論文等並びにその題目、目録及び要旨は、研究指導教員の承認を得た上、研究科長が指定する期日までに提出しなければならない。

(博士論文等の審査及び試験)

第17条 博士論文等の審査及び試験は、東京藝術大学学位規則の定めるところにより、研究科教授会が行う。

2 特別の事情により博士論文等の審査及び試験を受けることができなかつた者は、その理由を付して博士論文等の追審査及び追試験を願い出ることができる。

3 研究科長は、前項の願い出のあつた者について、研究科教授会の審議を経て、博士論文等の追審査及び追試験を行うことができる。

第4章 雑則

(雑則)

第18条 この規則に定めるもののほか、研究科に関し必要な事項は、研究科教授会の定めるところによる。

別表(第5条関係)

| 評 価 基 準 | | | |
|---------|--------|-----|---|
| 秀 | 100~95 | A s | 5 |
| 優 | 94~80 | A | 4 |
| 良 | 79~60 | B | 3 |
| 可 | 59~50 | C | 2 |
| 不 可 | 49 以下 | D | 1 |

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

(3) 東京藝術大学学位規則（抄）

制 定 昭和 52 年 4 月 28 日

最近改正 令和 5 年 12 月 21 日

第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 13 条、東京藝術大学学則（以下「学則」という。）第 91 条第 3 項及び東京藝術大学大学院学則第 23 条第 3 項の規定に基づき、本学において授与する学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 章 学位及び専攻分野の名称、授与条件

(学位及び専攻分野の名称)

第 2 条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

(1) 【略】

(2) 修士の学位は次のとおりとする。

| 研究科 | 専攻 | 学位（専攻分野） | |
|-----------|-------------|----------|----------------|
| | | 和文 | 英文 |
| 国際芸術創造研究科 | アートプロデュース専攻 | 修士（学術） | Master of Arts |

(3) 博士の学位は次のとおりとする。

| 研究科 | 専攻 | 学位（専攻分野） | |
|-----------|-------------|----------|----------------------|
| | | 和文 | 英文 |
| 国際芸術創造研究科 | アートプロデュース専攻 | 博士（学術） | Doctor of Philosophy |

(学位の授与要件)

第 3 条 【略】

2 修士の学位は、本学大学院の修士課程を修了した者に授与するものとする。

3～4 【略】

第 3 章 学位論文等審査

第 1 節 修士及び博士課程学生の学位論文等審査

(修士課程学生の修士論文等審査の願出)

第 4 条 本学大学院修士課程の学生が修士論文（専攻により研究作品、研究演奏又は特定課題研究報告書を加え、又は修士論文に代えて研究作品、研究演奏若しくは特定課題研究報告書とする。以下「修士論文等」という。）の審査を願出しようとするときは、修士論文等に修士論文等目録、修士論文等要旨及び履歴書を添えて、研究科長に提出しなければならない

ない。

第5条 【略】

(学位論文等審査)

第6条 研究科長は、修士論文等又は博士論文等（以下「学位論文等」という。）の提出があった場合は、研究科委員会（映像研究科及び国際芸術創造研究科については、教授会とする。以下同じ。）にその審査を依頼する。

2 研究科委員会は、前項の依頼に基づき、学位論文等の審査を行うものとする。

3 研究科委員会は、学位論文等を審査するため、学位論文等ごとに、学位論文等審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設ける。

(審査委員会)

第7条 審査委員会は、提出された学位論文等の内容に応じた研究分野担当の教授及び准教授並びに関連分野担当の教授及び准教授のうちから、研究科委員会において選出された3人以上の審査委員をもって組織する。ただし、審査委員のうち1人以上は教授とする。

2 研究科委員会は、学位論文等審査のため必要があると認めるときは、前項に規定する審査委員会に、当該研究分野担当又は関連分野担当の講師又は客員教授を加えることができる。

3 学位の授与に係る学位論文等の審査に当たっては、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

4 審査委員会は、学位論文等の審査のほか試験を行うものとし、その審査及び試験の結果を、文書をもって研究科委員会に報告しなければならない。

(試験の方法)

第8条 試験は、学位論文等審査の終了後に行うものとする。

2 試験は、学位論文等を中心として、その関連する分野について、口述又は筆記により行うものとする。

(課程修了の審査)

第9条 研究科委員会は、本学大学院学生の修得単位並びに学位論文等の審査及び試験の結果に基づき、その者の課程修了の認定について審議の上、合格又は不合格を票決する。

2 前項に規定する合格の票決を行う場合には、研究科委員会構成員（出張中の者及び休職中の者を除く。）の3分の2以上が出席し、かつ、出席者の4分の3以上が賛成しなければならない。

(審議の報告)

第10条 研究科長は、研究科委員会において前条第1項の規定により票決をしたときは、その結果を学長に報告しなければならない。

第11条～第14条 【略】

第4章 学位の授与等

(学位の授与)

第15条 学長は、学則第91条の規定に基づき卒業を認定された者並びに第10条及び前条第3項の報告に基づき、課程修了又は授与資格の認定をされた者に対し、それぞれ学位を授与する。

2 学長は、学位を授与することができない者に対しては、その旨を通知する。

(学位名称の使用)

第16条 学位を授与された者がその学位の名称を用いるときは、「東京藝術大学」を付記しなければならない。

(学位の取消し)

第17条 学長は、学位を授与された者が次の各号の一に該当するときは、教授会又は研究科委員会並びに教育研究評議会の意見を参考として、既に授与した学位を取消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

(1) 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき。

(2) 学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為を行ったとき。

2 前項に規定する票決を行う場合には、第9条第2項の規定を準用する。

第18条～第22条 【略】

附 則 【略】

(4) 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科開設授業公欠の承認基準

制 定 平成 30 年 4 月 12 日

(趣旨)

第 1 条 この基準は大学院国際芸術創造研究科の学生が授業を欠席する場合において、特別の事由により公欠する場合の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 公欠とは、特別の事由により国際芸術創造研究科（以下「研究科」という。）が認めた公の授業欠席をいう。

(特別の事由)

第 3 条 前条に定める特別の事由は、次に掲げるとおりとする。

(1) 忌引（父母：7 日間、兄弟姉妹及び祖父母：3 日間）

(2) その他研究科教授会が認めた特別事由

(承認手続)

第 4 条 前条に定める特別事由に該当する場合は、研究科教授会の承認があったものとみなす。但し、第 2 号に該当する場合は、個別に研究科教授会の承認を得なければならない。前条に定める特別の事由は、次に掲げるとおりとする。

第 5 条 特別の事由に該当して授業を欠席する場合は、当該学生が別に定める欠席届を原則として事前に当該科目の担当教員に提出しなければならない。

(公欠の例外)

第 6 条 特別の事由に該当する場合でも、欠席しようとする授業が集中講義科目のときは、公欠として認めない。

(公欠の処理)

第 7 条 公欠をした場合、当該公欠の授業時数（回数）は、当該科目の総授業時数に算入しない。

(実施細則)

第 8 条 この基準に定めるもののほか、公欠の取扱いに関して必要な事項は、研究科教授会の定めるところによる。

附 則

この基準は、平成 30 年 4 月 12 日から施行する。

